

能力認証を受けるために必要なカリキュラムの内容（イメージ）

	能力認証を受けるために必要なカリキュラム	具体的な科目等の例
基盤となる理論等	・専門的な臨床実践に必要とされる看護理論を学び、患者の社会的背景や心理的状况を把握・評価するために必要な視座を獲得する。 ・専門的な臨床実践の場において生じ得る倫理的諸問題に対処できるよう、生命倫理・看護倫理に関する能力を養う。	看護実践論 看護・医療倫理
基礎となる知識	・正確な症状の評価や臨床推論を行うことができるよう、解剖生理学、病態生理学について、看護師学校・養成所における教育やOJTで習得してきた内容の再確認も含め、正確に学ぶ。 ・専門的な臨床実践において正確かつ適切に判断を行うことができるよう、診断学に関する知識を正確に学ぶ。 ・専門的な臨床実践において個々の患者に合わせて薬剤を適切に使用することができるよう、臨床薬理学に関する知識（薬物動態等）を正確に学ぶ。	解剖生理学 病態生理学 臨床薬理学 診察・診断・治療学
技術・能力	・患者の身体的状態を正確に把握・評価することができるよう、問診・視診・触診・打診・聴診の基本的技術、身体所見や臨床検査データ等を活用する技術を学ぶ。 ・臨床推論や疾病の検査・治療を適切に行うことができるよう、これらに関する基本的技術を学ぶ。 ・薬物療法を安全かつ効果的に実施することができるよう、副作用等の発現の状況に関する観察能力や判断能力を養う。	フィジカルアセスメント 診察・診断・治療技術論
総合的知識・統合力	・多職種によるチーム医療の中で十分に能力を発揮することができるよう、自らに求められる役割、多職種との連携・協働の在り方、関係法規等について学ぶ。 ・専門的な臨床実践に必要とされる医療安全に関する知識・技術・姿勢等を学ぶ。	医療安全学 保健医療福祉システム 医療管理学（コンサルテーションの内容を含む）
演習・臨地実習	・疾病の治療と療養生活の質の向上の双方の視点をもった看護サービスを提供できるよう、医学的・薬学的な知識を看護実践に活用する方法論を学び、専門的な臨床実践能力に統合する。	演習については、臨床薬理学の内容及び診察・診断・治療学の内容を実施する。 実習については、基礎となる理論等や知識、技術・能力に加え、演習等で実施した内容を踏まえて、総合的な学習として実施する。

※ カリキュラムの項目は、「2年間」と「8ヶ月程度」のいずれも同一のものを想定。

ただし、8ヶ月程度のカリキュラムでは、「基礎となる知識」・「技術・能力」・「総合的知識・統合力」・「演習・臨地実習」について、一定の分野に特化した教育内容を検討。

能力認証を受けるために必要なカリキュラム等の具体例 (2年課程／8ヶ月課程)

	2年課程の例 (高齢者及び成人の慢性疾患を主とした例)	8ヶ月課程の例 (皮膚・排泄ケアの例)
教育課程におけるねらい	●適格な包括的健康アセスメント能力、クリニカルマネージメント能力、高度な看護実践能力、倫理的意思決定能力かつ多職種との協働能力を備え、プライマリケアを提供し地域で活動できる特定看護師(仮称)を目指す。 ●医師の包括的指示のもとに、高齢者及び成人に対して、<u>慢性疾患(糖尿病・高血圧症・慢性閉塞性肺疾患など)の継続的な管理・処置</u>、軽微な初期症状(発熱、下痢、便秘等)の診察や検査、必要な治療処置を行い、医師と連携し、一般病院の外来、訪問看護ステーション、老人保健施設等で活動する。	●皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程で履修した基礎知識や技術を基盤とし、さらに高度な創傷管理に関する追加教育を本養成課程で受け、医師の包括的指示のもとに創傷管理の医行為を行う特定看護師(仮称)を目指す。 ●医師の包括的指示のもとに、急性期から亜急性期病院の病棟や創傷に関連する外来等における慢性創傷を有する患者を対象に血液検査や血流検査等の決定および医療機器等を用いた高度なアセスメントを行う。また、デブリードマンや皮膚切開、非感染創の縫合、陰圧閉鎖療法、創傷被覆材や外用薬の決定などの<u>創傷処置を実施する</u>。
実習におけるねらい	慢性疾患を持ちながら地域で暮らす高齢者及び成人に対して、医師と連携しながら自律的に医療的介入も行い、プライマリケアを提供できる実践力を養う。	創傷の重症化を防ぎ、早期に治癒を促進させる医行為の実施に必要な評価や実践能力を身につける。
実習における目標	①地域で生活する高齢者及び成人とその家族の初期診療および継続診療において包括的健康アセスメントができる ②地域で生活する高齢者及び成人とその家族の初期診療及び継続診療の看護的治療マネジメントができる ③地域で生活する高齢者及び成人とその家族の健康レベルに応じた健康増進の支援ができる ④チーム医療における位置づけと役割を理解し、他職種との連携や調整ができる ⑤倫理観を持って実践を行うことができる	①褥瘡や下肢潰瘍の創など様々な創傷を有している患者の問題を医療機器や検査を用いて、アセスメントできる ②褥瘡や下肢潰瘍の創など様々な創傷を有している患者の重症化を防ぎ、早期に治癒を促進させる創傷管理技術が実践できる ③褥瘡や下肢潰瘍の創など様々な創傷を有している患者や家族のを対象に相談や教育的指導が行える ④チーム医療における位置づけと創傷管理を行う役割を理解し、他職種との連携や調整ができる ⑤倫理観を持って実践を行うことができる